



夏に欠かせない逸品

# 庄内たがわ ちや豆

## 「庄内たがわちや豆」とは？

外見は茶色い産毛に覆われており普通の枝豆と比べて小ぶりですが、茹でると甘い芳醇な香りが広がります。主に、昼夜の寒暖差がある地域で栽培しており、有機質肥料を使用しているため、コクのある甘みと風味の良さが生まれ、その味わいは高い人気を博しています。

「誰が食べても美味しい枝豆」を目指して、枝豆部会の部会員50人が24haで栽培しています。風味を保つために収穫されたものは藤島地域の野菜集出荷所で迅速に氷水で冷やすなど、品質維持の徹底にもこだわっています。また、2019年には同集出荷所に粗選機を導入し、選別作業効率の向上・省力化が大幅に進みました。

同部会は、より美味しい庄内たがわちや豆を生産するため、鶴引地域たらのき代地区に独自で採種圃を設けています。同部会で生産する枝豆は、採種圃の種子を100%使用しており、味にバラつきのない高品質な枝豆の安定生産に努めています。2020年産は出荷量80t、販売額5,000万円を目標に、産直んめ農マルシェや関東・中京市場を中心に出荷していきます。



## 早生品種を栽培し、高単価販売を狙う

株あつみ農地保全組合では、枝豆が地元市場に出回る前（7月中旬頃）の高単価時期に収穫・出荷を目指しています。4月下旬頃から鶴岡市温海地域の温暖な気候下で播種作業を行うことで早期出荷が可能となります。また、休耕地を利用しながら、防除や葉面散布などの肥培管理の徹底で高収量・良食味を追求しています。

「庄内たがわちや豆」は産直んめ農マルシェのオンラインショップでも好評販売中です！詳しくはP10のInformationをご覧ください！

【んめ農マルシェ】

TEL : 0235-25-6778

Email : sanchoku@ja-shonai.or.jp



# 団地化で一大産地の確立を きゅうり

## J Aではきゅうりの団地化を進めています！

鶴岡市鶴引地域におけるきゅうり栽培は1965年頃から始まり、現在は庄内地方でも有数のきゅうり産地となっています。一方、同地域では近年の担い手不足などにより徐々に栽培規模の減少が見受けられています。

J Aでは、2018年から大規模集積団地を核としたきゅうり振興策の検討を進め、2020年から団地整備へ着手しております。団地におけるきゅうり栽培モデルとして、同一施設二期作採りによる生産量増加と、栽培管理の一部自動化による省力的栽培管理で所得向上を目指します。また、団地への作付者は栽培経験30年以上のベテラン農家に加え、新たにきゅうり栽培にチャレンジする農家もおり、栽培技術の積極的な情報交換と担い手拡大に期待が持てる取組みとなっております。

## 生産・販売をJ Aが全力サポート！

現在、J A管内では33人の生産者が約3 haで栽培しており、2020年産は出荷量275 t 販売額6,300万円を目標に取り組んでいます。J Aは、団地内のハウス1棟に園芸施設環境観測器（モニタリング機器）を設置して栽培環境を数値化し、「栽培の見える化」で生産者全体の栽培技術の高位標準化を目指しています。21年度には、鶴引支所の青果物集出荷所へ画像選果機の導入を予定しており、共同選果体制を強化することで、出荷調整に係る労力軽減と選果品質向上による販売力強化を図っていきます。

きゅうり生産者はもちろん、作付け希望者には園芸TACや園芸特産指導員、アグリアドバイザー（熟練生産者）などが安定生産と収量確保に向け指導・支援していきます。ご興味のある方は、営農販売部 園芸特産課までご相談ください。

TEL : 0235-64-5831 Email : entoku@ja-shonai.or.jp

